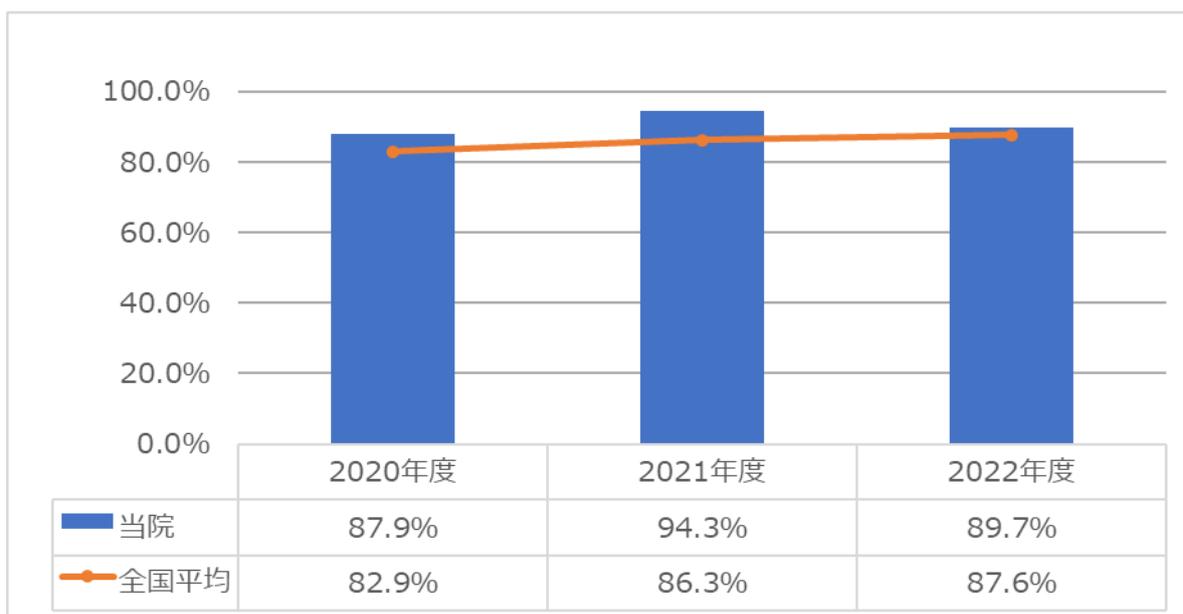


指標 13 T1-2, NOMO 乳がん手術患者に対するセンチネルリンパ節生検率



<定義>

分子	:	分母のうち、センチネルリンパ節生検が実施された症例数
分母	:	T1-2, NOMO の乳がん (初発) で入院して手術を施行した症例数
期間	:	2020 年度～2022 年度 (1 年毎に集計)
対象	:	上記期間の退院患者
値の解釈	:	高い方が望ましい

<解説>

乳癌は腋窩リンパ節に転移しやすく、従来は腋窩リンパ節を一定領域まとめて切除する腋窩リンパ節郭清が行われてきましたが、腕の浮腫み等のリスクがあり、生活上の制限を受けることがあります。手術前に腋窩リンパ節転移の可能性が低いと考えられる場合、乳癌が一番最初に転移するセンチネルリンパ節のみを手術中に検査し、病理学的に転移がなければリンパ節郭清を省略できるため、上述のリスクを減らし、生活の質の維持に貢献します。

※ 本データは厚生労働省提出用のDPCデータを基に作成されています。また、全国平均の値については、当院が参加している「医療の質と経済性に関する実態調査【京都大学大学院 QIP 事業】」における「医療の質の指標」の計測結果（事業に参加する全国の病院の平均値）を用いています。

【参考 URL】

<http://www.kch.kagoshima.jp/about/qip.html> (当院の QIP 参加について)

<http://med-econ.umin.ac.jp/QIP/acts.html> (QIP における計測結果)